



いよいよ夏休みまで残り3日！といっても、今年の夏休みは、2週間…。
 このところ、コロナの広がりが全国的に増えつつあり、お出かけにも気がつかいませんね。
 貴重な2週間の夏休みを、充実したものにできるように、今のうちから計画を立てるのもいいでしょう。その計画の中に、ぜひ読書の時間も入れてほしいと思います。
 今年の夏休みは、図書室は利用できません。夏休みの本5冊を借りる日があるので、
 いつもより少し長い本にチャレンジしてみてくださいね。



1学期に本をたくさん読んだ人です！（各学年・上位3名）

【1ねん1くみ】

1位	63冊	
2位	60冊	
3位	57冊	

【1ねん2くみ】

1位	64冊	
2位	61冊	
3位	53冊	



8月3日(月)の放送朝会にて
 図書委員会より表彰をつけました。

【2年生】

1位	67冊	
2位	60冊	
3位	44冊	

【3年生】

1位	87冊	
2位	72冊	
3位	71冊	

【4年生】

1位	91冊	
2位	87冊	
3位	80冊	

【5年生】

1位	84冊	
2位	82冊	
3位	81冊	

【6年生】

1位	93冊	
2位	87冊	
3位	85冊	

1学期の貸出数…9,036冊（平均44.7冊）

2019年1学期：6,950冊

休校や分散登校の影響があるかと

思いましたが、たくさんの方が

図書室に来てくれました！

ありがとうございました♪





8月といえば、忘れてはいけませんが、広島・長崎に原子爆弾が投下されたことです。

広島へは、8月6日、その3日後の8月9日に長崎へ、原爆が投下されました。

広島では約14万人、長崎では約7万人の命が、1発の原子爆弾で一瞬にして奪われたのです。

こんな悲惨な歴史を、二度と繰り返してはいけません。ぜひおうちの人と一緒に読んでみてください。

『パンプキン 模擬原爆の夏』 令丈ヒロ子・作



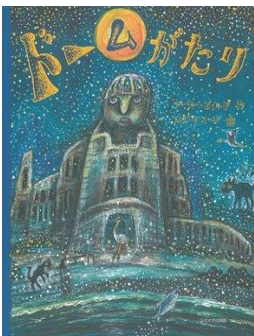
私たちの町が、原爆投下の練習台に?! 1945年、終戦の年。原爆投下の練習のため、模擬原爆・通称パンプキン爆弾が日本各地に49発も落とされていた事実を知っていますか? 本当にあった話なのです。

『この計画はひみつです』 ジョナ・ウィンター・文



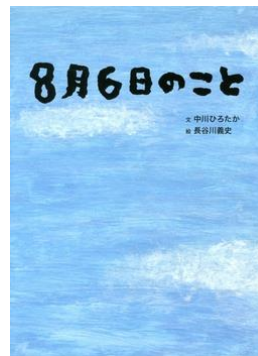
ニューメキシコの砂漠の名もない町に、科学者達がやってきました。ひみつの計画のために、政府にやとわれた科学者たちです。計画は極秘とされ、だれも情報をもらえません。もうすぐ完成です。何が完成したのかは、実際に絵本を見て感じてください。

『ドームがたり』 アーサー・ピナード・作



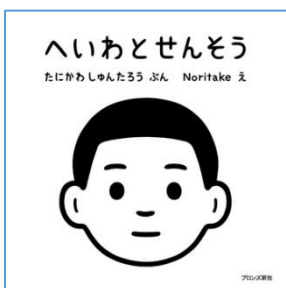
1915年にできた「広島物産陳列館」。人びとの活気にあふれた楽しい場所だったが、戦争・原爆の悲しい歴史を伝える建物になってしまった「ドーム君」。ドーム君は何を語るのだろう…。原爆ドームからの視点で原爆について考えます。

『8月6日のこと』 中川ひろたか・作



これは66年前、本当にあったお話です…瀬戸内海はその日も、おだやかな海でした。絵本作家・中川ひろたかさんが、広島で亡くなった自分の伯父、被爆者となった自分の母の体験を「いいからいいから」シリーズの長谷川義史さんの絵で伝えます。

『へいわとせんそう』 谷川俊太郎・作



くらべてみると、見えてくる。「へいわのボク」と「せんそうのボク」では、なにが変わるのだろう。ひたすらに白と黒だけで描かれている絵本。しかし開くたびにへいわとせんそうの違いに、ハッとさせられます。そしてラスト4ページが、強烈に印象に残ります。

『へいわってどんなこと?』 浜田桂子・作



へいわってどんなこと? きっとね、へいわってこんなこと。いろいろな事から平和を考えます。日常の様々なことが平和につながる。と思ったら、平和という言葉が他人事ではなくなってきます。日本・中国・韓国の12人の絵本作家で作ったへいわ絵本。



がっき かしだし なつやす ようほん さつ
2学期の貸出は、夏休み用の本(5冊)を
ぜんいんかえ お がくねん
全員返し終わった学年からスタートします

